

第55回「等迦展」国立新美術館 関東六華会会員有志で鑑賞へ

夜半からの雪が降り続けています。道産子の私たちには、この程度の雪は雪にあらずですが。

前日の昨日は快晴の暖かい日。蒲原勝美さん（電気38年）が主宰する「等迦会」の「第55回等迦展」を同窓生5人で行ってきました。メンバーは、坂本さん（前関東六華会長、31年電気）、雨野さん（電気34年）、山崎さん（工化35年）、吉田（関東六華会副会長、39年電気）、駒米（顧問、電気36年）。残念ながら蒲原さんには会えませんでした。

等迦会は、大正11年（1922年）、東京美術学校（現東京芸術大学）西洋画科の卒業生が、大正15年（1926年）に「等迦会」と命名し、東京上野松坂屋に於いて、第1回等迦展が開催されました。戦中は休会をよぎなくされたものの、昭和40年（1965年）に再興された。今までのグループ展から発展し、新進作家に発表の場を提供する公募美術団体として昭和53年（1978年）第11回等迦展は公募1回展として東京都美術館にて開催され、記念すべき公募第1回展として充実した展覧会となったようです。そして今年は「第55回等迦展」として、2月8日～2月20日まで開催されています。

蒲原さんは、設立当初の大先輩の夢と意思を引き継ぎ、会長として重責を果たしています。

蒲原さんは毎回テーマとしている“海”を描いていますが、今年は「嵐の予感」出展しています。蒲原さんのご活躍を祈念しています。

駒米 隆記



蒲原 勝美 画伯の力作「嵐の予感」



雨野さん 駒米

山崎さん 坂本さん 吉田